



# 馬驍水墨画会報

発行所 馬驍水墨画会本部事務局、馬驍事務所  
〒三四〇〇〇〇一 埼玉県草加市青柳三(二)一七  
電話：〇四八(九三二)四三三八 http://www.maikyo.jp

—第14号—  
2007年1月21日

## 『創作意欲を高揚し、社会に水墨画の人材を育成』

馬驍水墨画会は、水墨画技法及び個性あふれる作品創作法の学習を主旨として設立致しを確立し、常に現状に留まらず、水墨画普及しました。教育経験を積み重ね四半世紀以上及と作品の質の向上に努めております。の歳月が経ちました。会員達は、継続的に 二〇〇七年初春を迎えるにあたり、馬研鑽を重ね、生活の潤いの為に趣味として 賜りました現役及び先輩会員、並びにご創意豊かな画家たちが育成されました。会家族、各界友人に心から敬意を表し感謝員の多くは、豊かな社会経験と書道等あらゆる芸術分野の薰陶を基に、水墨画を第二の人生に活かしております。彼らの独創的 な作品は、影響力のある水墨画団体より褒章を授与されており、カルチャーや文化福祉施設等の地域社会で活躍しています。

馬驍水墨画会 主宰 馬驍

## —故郷に錦を飾る—

### 「馬驍・王荻地芸術展」

（日本より応援団員五十名参加）

会場：北京・国立中国美術館  
主催：北京画院

後援：中国駐日本大使館文化部  
中国中央電視台書画院

世界華僑華人社団連合總會  
(社)日中友好協会全国本部  
(社)日中文化交流協会  
日本美術教育センター

会期：二〇〇六年十一月十九日

（二十七日）

馬驍・王荻地お二人の芸術代表70余点極めた作品が集約され、中国北京の国立中国美術館で「馬驍・王荻地芸術展」が上記の日程で盛会に開催されました。  
両先生は、日中平和条約締結後の一九七九年に馬驍水墨画会を設立され、東洋の水墨画の伝統を継承しながら新時代の水墨画をめざすと共に文化社会に貢献し真の水墨画の普及に努め、国際交流にも力を注いでこられました。馬驍先生は、帰国27年間の画家活動に於いて、東洋の神秘、馬驍芸術の地位を確立し、高く評価されており、また、王荻地先生は、花々を鮮やかに華麗な独自の世界をつくり墨彩画の新境地を開かれました。『両先生には「馬驍・王荻地芸術展」では非、故郷に錦を飾っていたいただきたい。』との会員達の強い願いもあつて日本より応援団員50名が結成され、



『馬驍・王荻地芸術展』来賓席右より、王式廓夫人、鄧林、馬驍、趙樹棟、肖峰、力群、李嶺驪、李可染夫人、王明明、井出敬二、頼尚龍、王荻地。



『馬驍・王荻地芸術展』開幕式会場にて

北京での開幕式に参加致しました。民革中央副主席李嶺驪、中国美術家協会副主席、北京画院院長王明明、原中国美術家協会副主席肖峰、日本国駐中国大使館公使井出敬二、政治界並びに美術界等名士約八〇〇人が出席しました。中国油画家会副主席聞立鵬、中国著名画家鄧林、力群、著名美術評論家邵大箴等。新華社、中央テレビ放送、人民日報、中国国際ラジオ放送等マスコミ数十社、会場を埋め尽くすほどの関係各位の参加者で華々しい開幕式でした。  
展示会期間中、両先生並びに著名な中国画家、先生の縁の方々と共に「馬驍・王荻地芸術展」感謝日中友好有志集いの晩餐会が催され、文化交流を通して、中国の方々との絆を強められました。  
団員たちは、中国国家博物館の計らいにより、幸運にも絵画巨匠・王式廓画伯（王荻地令尊）の「血衣」国宝級素描大傑作を観る事が出来、また、特別許可により傑作の前で全員記念撮影をさせていただきました。そして、中国美術界の主流である写実を中心とする伝統的芸術継承の著名画家と抽象的な中国現代芸術の世界を目指している著名画家達を訪問できたことも感動的でした。  
直に現代中国の美術発展の現況に触れたり、歴史・美術・世界遺産・神秘的景奇観の観光を満喫することが出来、強烈で印象に残る旅となりました。



中国美術館

### 日本中国文化交流協會

#### 祝 辞

「馬驍・王荻地芸術展」の開催と作品集出版を心からお祝い申し上げます。馬驍、王荻地両先生は、東洋芸術の宝である水墨画の伝統を継承し発展させ、普及するうえで大きな成果を上げてくれました。また、国際交流にも尽力され、水墨画を通して、中国をはじめ世界の人々との友情を深めておられます。

展覧会の御盛會をお祝い申し上げますとともに、馬驍、王荻地両先生のますますの御活躍をお祈りいたします。

2006年3月

日本中国文化交流協會  
 会 長 辻 井 喬  
 理 事 長 黒 井 千 次  
 代表理事 白 土 吾 夫  
 専務理事



中国美術家協會副主席、北京市文化局副局長、北京画院院長王明明氏：「私は、馬驍、王荻地の芸術に大変感動し、高度な技巧、真摯な感情、中日両国人民の交誼が繋がっている。」

↑在中国日本大使館公使井出敬二氏：「中国の改革解放以来、日中両国間に経済、文化の交流は良く行われ、本展の開催は本当に慶賀なことです。」



馬驍作品会場にて。↓  
王荻地作品会場にて。←



王荻地先生開幕式にて挨拶された。



『馬驍・王荻地芸術展』応援団一行は、北京画院著名水墨画家趙志田ご自宅アトリエに実演見学。



世界遺産四川省九寨溝観光



『馬驍・王荻地芸術展』応援団一行、中国国家博物館に展示されている画伯王式廓の国宝級素描大作『血衣』を見学。

### 馬騮水墨画会

#### 第9回 東京第3支部作品展



期 間 平成18年 4月16日(日) ~ 4月18日(火)  
 午前10時~午後6時(前日は午後5時)  
**入場無料**

会 場 東京芸術劇場 豊洲2号館  
 東京都豊洲4丁目1-8の1 電話03-5561-1111

主 催 馬騮水墨画会全国本部 馬騮水墨画会東京第3支部  
 後 援 日貿出版社 日本美術教育センター  
 馬騮水墨画会全国本部 馬騮水墨画会展示館



### 馬騮水墨画会

#### 第5回 千葉支部作品展



期 間 平成18年 3月11日(土) ~ 3月14日(火)  
 午前10:00~午後6:00 (前日は午後1:00より、最終日は午後5:00まで)

会 場 市川市八幡市民談話室 マイギャラリー 入場無料  
 千葉県市川市八幡2-4-8  
 電話 047-334-5656  
 京成線八幡駅北口・  
 都営新大塚線八幡駅・  
 京成線成八幡駅より徒歩3分

主 催 馬騮水墨画会千葉支部  
 後 援 日貿出版社 (財)日本通信美術学園  
 馬騮水墨画会全国本部



## 中国雲南スケッチの旅 作品展

二〇〇五年十月、世界的な著名画家、丁紹光氏の芸術美の原点を訪ねる雲南省スケッチの旅に参加された皆様は、昆明の古寺、断崖絶壁の細い階段を上り詰めた竜門、大理、世界遺産の麗江古城、西双版纳のタイ族の寺院、高床式の民家を訪問、少数民族との触れ合い、異民族、異文化を肌で感じました。

豊富な体験と充実した感動一杯の旅であり、日々の絶景に新しい創作意欲を駆り立てられたスケッチ、及びスケッチを水墨画作品に制作して、研修成果の二十余作品を発表しました。

### 馬騮水墨画会

#### 第11回 埼玉支部作品展



期 間 平成18年 4月20日(土) ~ 4月23日(日)  
 午前10時~午後6時(前日は午後5時)  
**入場無料**

会 場 埼玉県加須市高砂2-7-1 電話049-922-1700

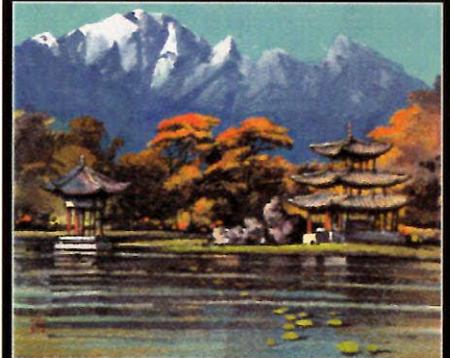
主 催 馬騮水墨画会全国本部  
 馬騮水墨画会埼玉支部  
 後 援 日貿出版社  
 日本美術教育センター  
 馬騮水墨画会全国本部  
 馬騮水墨画会展示館



## 各支部作品展

二〇〇六年は、千葉、東京、埼玉、静岡各地総計六支部による作品展が開かれました。会員の力作が揃い、見ごたえがあり、心に残る作品展となりました。

### 中国雲南スケッチの旅 作品展



期 間 平成18年 4月15日(土) ~ 4月30日(日)  
 午前11時~午後6時(前日は午後7時、最終日は午後7時まで)

会 場 馬騮水墨画会展示館  
 主 催 馬騮水墨画会全国本部 馬騮水墨画会展示館  
 指導講師特別出品 馬騮(まさる) / 王莅地(おうりき)

●出品者氏名 (氏名順)  
 雨宮 雅子 井ノ川 優子 築野比 密子 柏木 美保子 藤島 純子  
 川本 敏子 上坂 幸希 国領 理恵 小畑 よし子 山口 母美子  
 土田 恵子 坪内 遊代 新田 邦子 春 峰子 根岸 隆子  
 服部 京子 龍野 沙子 水上 令子 道江 義嗣 宮田 豊子  
 山口 満恵 山口 泰子

※本展は本館日曜日は会場におきません。

### 馬騮水墨画会

#### 第7回 東京第4支部作品展



期 間 平成18年 8月18日(金) ~ 8月23日(木)  
 午前10時~午後6時(前日は午後1時より、最終日は午後4時まで)

会 場 O美術館 第1,第2展示室  
 東京都品川区大崎1-4-2  
 大崎ニューシティー・2号館2F  
 電話 03-3495-4040

主 催 馬騮水墨画会全国本部  
 馬騮水墨画会東京第4支部  
 後 援 日貿出版社  
 日本美術教育センター



### 馬騮水墨画会

#### 第13回 静岡支部展



期 間 2006年 7月28日(木) ~ 8月2日(火)  
 午前10時~午後6時(前日は午後12時から、最終日は午後4時まで)

会 場 しずぎんギャラリー四季 入場無料  
 静岡県道手前1-13 アゴラ静岡  
 (静岡銀行呉町支店7F)  
 電話 054-250-8777

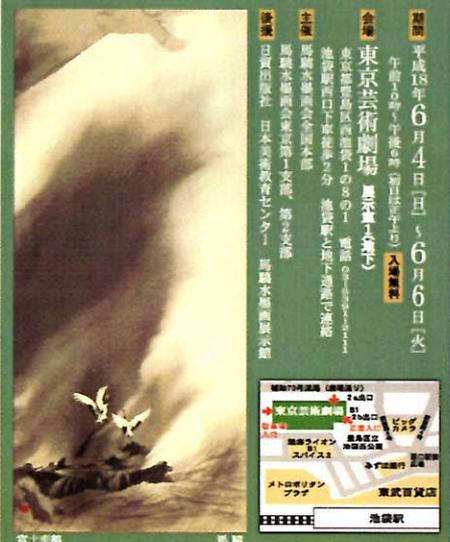
主 催 馬騮水墨画会全国本部  
 馬騮水墨画会静岡支部  
 多摩支部、神奈川支部

後 援 静岡新聞社・SBS静岡放送



### 馬騮水墨画会

#### 東京第1,第2支部作品展



期 間 平成18年 6月4日(日) ~ 6月6日(火)  
 午前10時~午後6時(前日は午後5時)  
**入場無料**

会 場 東京芸術劇場 展示室(大ホール)  
 東京都豊洲4丁目1-8の1 電話03-5561-1111

主 催 馬騮水墨画会全国本部 馬騮水墨画会東京第1支部  
 馬騮水墨画会全国本部 馬騮水墨画会東京第2支部  
 後 援 日貿出版社 日本美術教育センター 馬騮水墨画会展示館



# 馬驍水墨画展示館十五周年記念

## 『平成十八年度馬驍水墨画会新作発表展』

主催：馬驍水墨画全国本部  
 会場：馬驍水墨画展示館  
 会期：平成18年6月28日～7月24日

平成十八年度の展覧会は、馬驍水墨画展示館を会場として開催されました。馬驍水墨画展示館は、設立して丁度十五周年にあたりますが、その間、水墨画界に多大な功績を残し誇りある歴史を刻んで参りました。十五年の歴史と功績を称え、馬驍水墨画展示館設立十五周年記念「平成十八年度馬驍水墨画会新作発表展」を開催致しました。日頃の努力と研鑽の成果を集大成し、各自更なる向上の糧となる絶好の機会となるようにと考案されました。会員達は、これまでの指導により培われた発想や閃きを最大限に生かした作品、个性的でより高い芸術性を追求した作品を発表致しました。また入会して日の浅い会員も意欲的に出品し、レベル向上のチャンスと会員相互の親睦を深められました。

展覧会は、会員の水墨画技術、創作レベルの一層の向上に繋げると共に、各水墨画界愛好者へ水墨画芸術の神髄を広く波及させ反響を呼びました。

### 総評

平成十八年度の展覧会は百余名の会員の力作が集まりました。いずれの作品も筆、墨の用法、構図など魅力溢れるものばかりで全般に表現力が向上したようです。

墨が主体の画、具象、抽象、墨彩画など作者自身の心が素直に表現され、新時代の水墨画芸術を追求した個性のある優れた創作作品が目立ちました。今後益々、自信と意欲を持って大胆で創造的な作品の制作に励むように期待しております。

新作発表展の講評会場風景

馬驍水墨画展示館にて



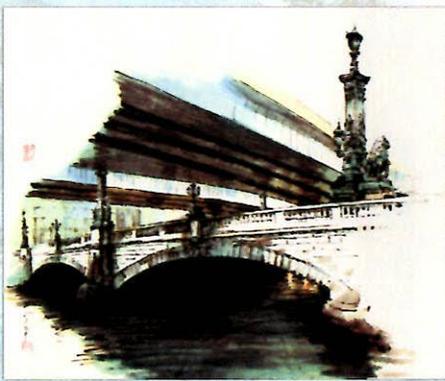
## 平成十八年度馬驍水墨画会新作発表展

### 期別展示出品者氏名一覧

第1期 6月28日 ～7月3日	第2期 7月5日 ～7月10日	第3期 7月12日 ～7月17日	第4期 7月19日 ～7月24日
柏木 美保子(責任者) 相原 作治郎 青木 英二 浅沼 保 安達 良元 阿部川 雅弘 雨宮 雅子 荒井 美代子 飯塚 寿子 石井 悦夫 出水田 久子 井上川 優子 井上 京子 今田 洋子 岩城 スミ子 榮野比 常子 大河内 喜助 大倉 恭子 大附 瑞枝 大西 喜実子 加藤 宏子 鎌島 純子 河内 啓子	田口 燦美子(責任者) 川本 敏子 菊島 幸子 木村 馨思 木村 峯子 熊井 松枝 上坂 幸市 国領 理恵 小林 巖 小村 文子 斎藤 歌子 酒井 友子 佐藤 耕三郎 佐藤 千恵子 佐藤 美奈子 佐野 クミ子 柴田 玲子 新澤 淑子 杉山 祥鳳 鈴木 愛子 鈴木 静江 須藤 正行	山口 泰子(責任者) 染野 稔子 高木 まり子 高寺 慶市 高橋 周子 高橋 由利子 竹井 嘉郎 土田 憲子 藤間 美千子 外山 幸子 中尾 正勝 永田 みえ子 新本 友子 新田 弓枝 新田 邦子 布 峰子 根岸 協子 根本 京子 野島 浅三 野島 和子 荷見 和子 服部 京子 八幡 佐起子	山崎 重之(責任者) 濱田 そよ子 原田 恭子 原田 利子 原田 たけ子 廣住 美智子 藤原 隆 藤原 田鶴子 松井 重泰 松下 勝 水上 今子 道江 義頼 宮田 豊子 守屋 雅子 柳 早苗 柳 満恵 山崎 發江 山中 和子 山部 美保 山森 久美子 横山 久美子 渡辺 芳子

馬驍水墨画展示館創立15周年記念

## 2006年度 馬驍水墨画会 新作発表展



今年馬驍水墨画展示館創立15周年を記念し、画会今後の方針、目標をさらに電線させ、会員の實力を高めるために、展示館にて「2006年度馬驍水墨画会新作発表展」を開催致します。この努力した結果は、次年度の「馬驍芸術大賞展」には、皆様の水墨画の芸術性を追求した個性豊かな作品が更に掲載できることを期待しております。

会員達の最新制作作品を展示させていただきますので、ご高覧下さいませ。今年もご来場とご鑑賞を賜りたくお願い申し上げます。

開催 2006年 6月28日(水)～7月24日(月) 入場無料  
 午前11時～午後5時(各期最終日午後6時まで)  
 ・1期 6月28日～7月3日 ・2期 7月5日～7月10日  
 ・3期 7月12日～7月17日 ・4期 7月19日～7月24日

会場 馬驍水墨画展示館  
 〒179-0013 東京都豊島区東池袋3-16 グランドメゾン東池袋101  
 (Tel. 03-3987-1474)

主催 馬驍水墨画会全国本部  
 〒140-0002 埼玉県草加市青柳9-21-7 TEL 048-931-4238 FAX 048-931-4606

第15回記念  
**馬驍水墨画芸術展**

「自然との対話」  
風と光と水と

奥深く、かつ親しみやすさ。大勢の来場者で溢れました。

**第15回記念 馬驍水墨画芸術展**

「自然との対話」風と光と水と

会期：2006年9月27日〔水〕～10月3日〔火〕

会場：伊勢丹新宿本店館5階IIアートギャラリー

今回は、澁墨画に加え、アクリル絵具顔料などの混合技法による澁彩画も多数展覧されました。奥深く、かつ親しみやすいと好評で会場は、終日、大勢の来場者で溢れました。

〈会報の新作発表展作例〉  
ミニギャラリー



山崎重之 『明りの雪屋敷』



服部京子 『春の足音』

会期中書道学術研究会を行いました。

日本書画家、篆刻家、宇俊之、王荻地、金醒石、晋欧、沈強、段冰、馬驍、李又三、出版社編集長長田中、画会から柏木、山口、水上、高橋などが参加、中国美術史家李松先生の青銅器銘文書法について評価と学術研究討論を行いました。

（編集部）

「馬驍」

馬驍水墨画展示館創立15周年記念展

中国美術史家 李松

**青銅器銘文書道展**

「書画同源」の理論のもとに

李松の青銅器銘文書道展作品は「書画同源」に対する論証ならびに象形文字、公意文字、図形文字が後世の中国と日本書道絵画、各種芸術に渡った最も貴重な財産です。また、現代芸術を追求する人達に非常に大きい啓発となった。

馬驍

会期：平成18年6月20日(火)～6月25日(日)  
午前11時～午後6時(最終日は午後4時まで)

会場：馬驍水墨画展示館  
東京都豊島区東池袋5-39-16-101  
Tel & Fax: 03-3987-7474

主催：馬驍水墨画展示館  
馬驍水墨画会全国本部  
埼玉県草加市青柳3-21-7  
Tel: 048-931-4238 Fax: 048-931-4526

後援：日貿出版社、東京商院

交通のご案内  
● 京山線池袋駅南口徒歩8分  
● 都電有馬線徒歩2分  
● 地下鉄丸の内線池袋駅 徒歩6分  
● 地下鉄有馬線東池袋駅(4番出口) 徒歩10分  
※豊島区立中央図書館の隣り

中国美術史家 李松

**青銅器銘文書道展**



根岸協子 『ライバル(初孫)』

**読者からの声**

今後、会報の特別号などで、不定期にでも、会員の作品、山水・花鳥・人物などの新作を掲載して、会員相互の交流の機会をつくっていただきたい。

**編集部より**

貴重なご意見を戴き有難うございました。今回の会報は、会員作品や個展情報を掲載し、規格を一新致しました。今後もお気軽に「質問、ご意見、苦言」などお寄せ下さい。

# 《馬驍・王荻地教室》紹介

## 初級科(指導：王荻地)

楽しみながら堅実な水墨画描法を習得。水墨画を始めてみたい方、また基礎からもう一度学びたい方のための基本講座です。墨と筆の用い方から模写、写生を行い基本的な構図の取り方まで、どなたでも楽しく学習を続けられます。

教材より



## 研修科(指導：王荻地)

基礎技術能力と創作知識を磨き上げます。基礎学習を生かして、模写、写生などを素材に、独自の創作をめざす講座です。楽しく学習を続けられます。

教材より



## 王荻地

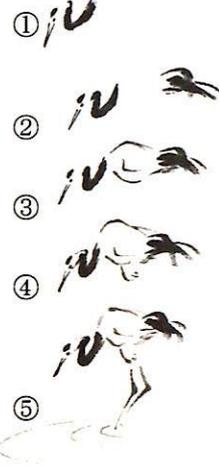
## 墨彩画花の讃歌



使用教材(例)

## 技法科(指導：馬驍)

技法を中心として学習します。又技法を作品に活用する方法を指導します。



線描で描く

明暗で描く



用筆と表現 流利



## 創作科(指導：馬驍)

創作指導を中心とする講座です。創作には、技法と構想、構図などが不可欠です。正しい創作方法に基づき優秀な作品を制作できるように導きます。



構図構成の実際 I  
呼应関係

モチーフ同士の「語合い」のさせ方の違いにより、絵に様々なドラマを生み出す。



使用教材(例)

### 《馬驍・王荻地水墨画教室》

社団法人日本美術家連盟事務所5階  
〒104-0061  
東京都中央区銀座3の10の19  
電話：03(3542)2581(代)  
FAX：03(3545)8429  
(授業日連絡可能)

最寄り駅  
東京メトロ有楽町線「銀座一丁目駅」  
より徒歩約5分  
東京メトロ銀座線、丸の内線、  
日比谷線「銀座駅」より徒歩約5分  
東京メトロ日比谷線、都営浅草線  
「東銀座駅(A2出口)」より徒歩約5分  
JR山手線、京浜東北線有楽町駅  
より徒歩12分



王荻地講義風景



見学随時受付中(要予約。お気軽に電話でお問合せ下さい。)  
ご希望の方には資料をお送りいたします。

ご連絡先  
馬驍水墨画会本部事務局、馬驍事務所  
〒340-0002 埼玉県草加市青柳3の21の7  
TEL：048-931-4238 FAX:048-931-4526  
携帯：090-8308-0133 (王)  
<http://www.makyo.jp>



美術家会館5階会議室



美術家会館7階アトリエ

### 《馬驍・王荻地水墨画教室》銀座でスタート

### 馬驍水墨画展示館 閉館の挨拶

初夏の候、皆様には、ご健勝のこととお慶び申し上げます。

私共が、一九九一年七月に「馬驍水墨画展示館」を設立してから十五年間、各方面有志の皆様から多大なるご支援とご指導を、いただきながら、この展示館を拠点とし、水墨画の普及と向上を計り、また国内外の芸術家の作品を展示し、芸術を通して文化交流を深める努力をまいりました。

しかし、五年前に馬驍突然の重病の後には、皆様にご心配をお掛けしながらも、創作活動を行い、多くの水墨画団体や、友人の皆様のご支援を戴くと共に「馬驍水墨画展示館」の事業を発展させて参りました。これも偏にお力添えのお陰と、心から感謝いたしております。

この程、馬驍は、多くの時間と精力を芸術創作と水墨画の普及と向上を計るために専門の指導書の執筆を重点に活動することを決意いたしました。

つきましては、誠に勝てながら二〇〇六年後半に「馬驍水墨画展示館」を閉館させて頂くことになりました。

尚、今まで展示館で行っていた「馬驍」と「王荻地」の水墨画教室は、七月より東京の銀座三丁目の(社)日本美術家連盟のアトリエと大会議室で行います。

また、馬驍水墨画会全国本部は、埼玉県草加市馬驍事務所に移動し、今まで通り運営してまいります。

以上、新たな決意をもって、芸術創作を追求し、水墨画の普及と向上の信念を持って努力して行く所存です。倍旧のご支援を重ねてお願い申し上げます。

二〇〇六年六月吉日 馬驍

各地の展覧会の報告

日中文化交流協会の会員達と会長、著名詩人辻井喬(中)、中国政府文化代表団歓迎会 (ホテルニューオーダニ)にて。

「藝術一基、宇園スケッチの基」展  
榮野 从 常子 水墨画作品展



期間：2006年 11月3日(金)～11月30日(木)  
午前9時～午後9時 (最終日は午後5時まで)  
会場：ヒラカワ菓子店 ギャラリー (入場無料)  
〒904-2171 沖縄県沖縄市高松3丁目2番18号 TEL.098-938-0545  
FAX.098-938-0546 E-mail: info@hirakawa.com



田口婦美子水墨画個展  
後援：馬驍水墨画会全国本部 リビング新聞社  
会期：2月1日(水)～2月5日(日)  
会場：静岡市民ギャラリー 第4展示室



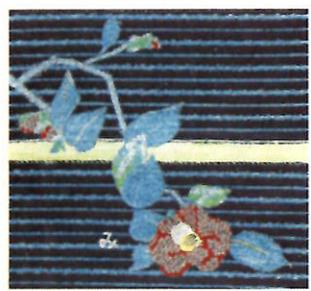
鈴木静江水墨画個展  
後援：馬驍水墨画会全国本部 リビング新聞社  
会期：2月1日(水)～2月5日(日)  
会場：静岡市民ギャラリー 第4展示室

浅沼保水墨画個展  
＜90歳記念展＞



後援：馬驍水墨画会全国本部  
会期：7月19日～7月23日  
会場：清水ガスサロン展示室

佐藤 美奈子展  
布絵・水墨画・書  
—— 創りだす情熱を ——



2006年5月29日(月)～6月3日(土)  
10:00AM～6:00PM  
(初日1:00PMから 最終日4:00PMまで)  
会場：東京小津ギャラリー

平成十八年度新役員紹介  
常任理事 須藤正行  
常任理事 道江義頼  
編集者 柏木美保子、田口婦美子、山崎重之、王荻地。  
今年の会報は、使いやすいことを考え、規格サイズをA4版に変更しました。

弔慰  
左記の諸氏が永眠されましたので謹んでご報告申し上げます。尚、当日は、馬驍水墨画会役員が代表し参列し、弔意を表し、弔意金をお贈り致しました。  
三月二十三日 佐野 たき (八十六才)  
五月十日 重富 房子 (八十八才)  
十一月十五日 浅沼 保 (九十才)  
諸氏は、馬驍水墨画会の活動に多大な貢献をされました。ここに深く哀悼の意を表します。

DVD (上下編2枚組) ¥3000 (税込)

上編：  
① 中国国家博物館参観、王氏廓名作「血衣」及び創作過程説明(中日語)  
② 「馬驍・王荻地芸術展」開幕式盛況、各界名士代表評論(中日語)

下編：  
① 北京画院齊白石記念館参観。  
② 北京画院著名水墨画家趙志田のアトリエへ訪問、実演見学。  
③ 画家宋庄、現代美術評論家栗憲庭。  
④ 七九八工場参観、著名現代芸術書画家李松松へ訪問。



